

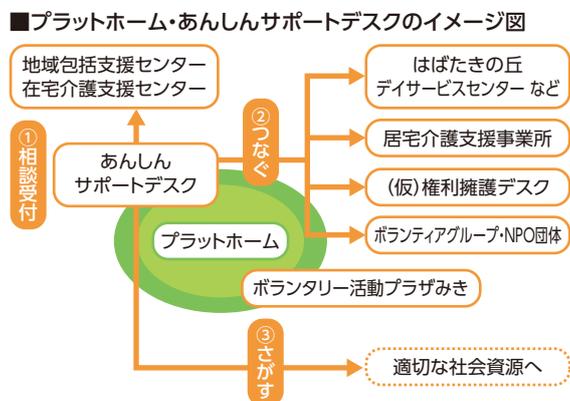


地域の困りごとをみんなで考える！力合わせのプラットフォームホームづくり

三木市社協がこの度策定した「第2次地域福祉活動計画(平成24～28年度)」は、市民とともに力を合わせる取り組みを随所に盛り込んでいます。なかでも象徴的なのが、相談から問題解決までを一体的につなぐプラットフォームづくりだ。

ワンストップの相談窓口がスタート

市社協では、昨年度の試行を踏まえ、今年度より「あんしんサポートデスク」が本格始動した。各種関係機関の相談窓口が増える中で、「どこに相談すればいいのか分かりづらい」「たらい回しになるのでは」など、相談につながるにくい市民の困りごとを高齢・障害等の分野にかかわらず受け止めるワンストップの窓口だ。相談を待つのではなく積極的に市民が集う場に出向き、困りごとをキャッチする機能もある。内容に応じて、専門窓口や各種サー



ビス、ボランティア活動へとつなぐ。ケアマネジャーなど専門職からの相談も多いという。現在、市内3圏域のうち南部圏域で展開しており、今後は全市域へ広げる予定だ。

活動エリアに着目 地域安心生活に視点を向ける

南部圏域の「自由が丘」では、3年前から「在宅生活支援プラットフォーム」が取り組まれている。市民やボランティア団体、専門職が地域の問題をとともに考え対応する場

として、公民館に設置された。「このお家のおばあちゃん、気になるなあ」。民生委員児童委員やクリーンキャンペーン、パトロールなどのボランティアグループ、NPO法人にも呼びかけ、集まったのは10数グループ。話し合いが重ねられ、「ゴミ拾いの近くのお宅やから、活動の後に見に行くことならできわの声に、「じゃあ私たちは…」と各々が出来ることを出し合った。活動分野が違う者同士が、少し足を延ばしてできる「声掛け運動や見守り活動は、今も継続中だ。

今後はこのプラットフォームに「あんしんサポートデスク」の担当者が入ることで、潜在ニーズが拾い上げられ、さらなる支援が広がるのが期待されている。「災害時の対応も含め、市民・ボランティアグループ・専門職がそれぞれの持ち味を発

揮できるようにつなぐのが社協の役割」と市社協事務局次長の稲見秀行さんは語る。顔の見える関係性を築いてきたからこそ、いざというときに1人のために皆が集まり知恵を絞る。市社協はこれからもそんな場を、市民とともにつくっていく。



市民と専門職が地域の課題をとともに考える

超高齢化社会が現実のものとなった今日、いかにして地域社会を心の通い合う潤いのあるものにしていくかは、今に生きる者に与えられた大きな課題です。三木市社協では地域社会の現状から課題を洗い出し、第2次地域福祉活動計画を策定しました。

計画を実のあるものにするために、住民に周知していくことが重要です。そのためにも、あらゆる機会にあらゆる広報媒体を活用し、みんなで体験しながら地域の課題解決に取り組める風土づくりに努める三木市社協でありたいと考えます。



三木市社会福祉協議会 地域福祉活動計画策定委員会委員長 土居 正宏